

本園の教育目的

《神さまの愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。》

神さまが愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神さまのかたちに造られた私たちには神さまの限りない愛が注がれています。その神さまの愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神さまの愛のもとで保育者や友だちと喜びを共にし、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

- ・子どもが、自分自身が大切な存在として受け入れられていることを感じとり、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができるようになる。
- ・子どもが、イエスさまを身近な存在として知ることを通して、見えない神さまの恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスさまと共に、日々を歩もうとする思いを与えられる。
- ・子どもが、自分と他の人との違いを認めると共に、違いを認めつつ一緒に生活するための努力ができるようになる。
- ・子どもが、こころを動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的に様々な事柄に関わるようになる。
- ・子どもが、私たちの生きる自然や世界を神さまの恵みとして受けとめ、自然や世界の事柄に関心を持ち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- ・子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに抵抗することができるようになる。

本園の教育目標

今年度重点的に取り組む内容

2023年度年主題『ともにつむぎだす～希望の中で～』

年主題聖句「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。」 エフェソの信徒への手紙2章17節

・年主題『ともにつむぎだす～希望の中で～』のもとに、イエス様が与えてくださる希望の中で、これまで、園が守り続けてきたことやこれまでの保育で気づいたこと、また、これから大切にしていきたいことなど、さまざまな糸をよって新しく希望をもって紡ぎ出す保育を目指す。これまで通り日々の礼拝を大切に、縦の糸としての神さまとのつながりを生活の中心に置き、聖書のことばを聴き賛美の声を豊かにするよう努める。

・コロナ禍3年間の生活の中で様々な制限を受けたことで、異年齢のお友だち、保護者や地域の方など、周りの人との関わりが希薄となり、子どもたちの健やかな成長のために周囲の人との関わりを深めていくことがより求められている。特に園内においては異年齢の関わり合いを深め、小さい子への思いやりやいたわりの心、また、大きい子へのあこがれや挑戦する気持ちなどを十分に感じながら過ごす一年でありたい。これらのことから今年度の保育の年間テーマを『いっしょに』とし、子どもたち同士が相互に関わり合いながら、興味関心を広げ、わくわく感が生まれる子ども主導の保育を大切にする。

・ユネスコスクールの活動テーマ『わくわく946～ちびっこ探検隊～』を合言葉として、自分たちの身の回りに目を向け、地域にたくさん出かけて行き、自分たちの住んでいる釧路について理解を深めて

子どもたちの視点で興味や関心を広げつつ、様々な発見にわくわくする経験を深めていく。

- ・保護者との信頼関係をより深め、それぞれの園児のその時の姿を保護者とともに共有し、共に子育てを担っていく。保育参観の回数を増やし、保護者が園に足を運ぶことのできる機会を増やす。
- ・各学年の教師同士でドキュメンテーション研修などの園内研修をもち、子どもに対する共通理解を深め、個々の保育力のアップを図る。教職員同士が互いに刺激し合い、保育のアイデアを得たり、保育の課題について相談し合ったりして、教師全体で保育しているというチームとしての意識を高め、質の高い保育を目指す。
- ・新園舎となり、認定こども園化に伴って見直した危機管理マニュアルを、教職員及び給食業者職員全員で共通理解をはかり、園における安全を守り、危機管理意識の向上に努める。
- ・認定こども園2年目となり、試行錯誤しながら過ごしてきた1年目の反省を踏まえ、教職員のシフト体制を整えたり、職務内容について検討したりして、教職員がより働きやすい体制をつくる。

教職員による評価項目に対する自己評価

※ () 内は前年度数値

評価項目	取り組み状況	評価
I. 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍によっていろいろな面で不自由を感じたり、様々な制限を強いられたりしてきたことが5類になったことで制限から自由となり、人と人との関わりやつながりを深める1年間となった。保育の年間テーマを『いっしょに』の言葉のもと、神様と人との縦の繋がりと、人と人との横の繋がりを、子どもたち同士のみならず様々な方々と豊かに紡ぎだすことができた。特に教師会ではこれまでの固定概念に捕らわれず、新しいアイデアを互いに出し合い、子ども主体の保育を目指した。これまでの経験で得たものと新しく取り入れたものをうまく組み合わせ、紡ぎ合わせた保育を心掛けた。 ・今年度は教育要領及びキリスト教保育改訂版の学びを行うことができなかった。保育の基本に立ち返る研修を行い、教師一人ひとりが子どもたちの人的環境として、資質を向上させることが課題である。 	3.6 (3.5)
II. 保育の在り方・幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保育事故についての研修や子どもの誤飲による死亡事故の報道をきっかけに、教師会での話し合いを行い、園舎施設内における危険や保育を改めて見直した。怪我記録の整備、誤飲事故を防ぐための給食メニューの見直し、園舎施設内の危険個所の確認などを行った。 ・季節ごとの保育参観に加え、自由参観日を設けて、保護者の参観の機会を増やしたことや各行事参加において、人数制限のない形での開催としたことで家庭との連携が深められた。また、教師と保護者同士の信頼関係も深まり、子ども理解が深められている。また、行事においては、子どもたちの主体性を尊重する保育の中で、子どもたち一人ひとりが伸び伸びと取り組むことができ、子どもたちの満足感・達成感の高いものとなった。 	3.8 (3.7)
III. 保育者としての資質・能力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが一日中、学年を超えて互いに関わり合って遊ぶ「みんなの日」の取り組みでは、友だちや先生と伸び伸びと遊び、目を輝かせて好きな遊びに熱中する姿が見られ、保育の在り方について教師一人ひとりが見つけ直す機会となっている。 ・度々の報道で耳にしてきた不適切保育について話し合い、子どもたちの人権擁護のためのチェックリストを教職員全員で行い、自ら保育者としての言動について改めて見直し、保育者としての適切なあり方について意識を高めた。 ・キリストの体である一人ひとりが、それぞれの得意なことを活かしながら、不得意なことも互いに補い合い、認め合い、尊重し合って、教師チームとしての保育の質を高めるように努めている。 ・保育には教師自身の人間性が重要であるという認識のもと、日頃から文化や芸術に触れたり、広くアンテナを広げて興味関心を持ったりして、自己研鑽に励む努力をしている。 	3.8 (3.8)
IV. 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から子どもたちの様子など共有し合い、子どもたちや各家庭へ配慮をしながら教職員全体で保護者への丁寧な声掛けと対応を心がけている。また、電話や連絡ノート、ブログや面談など様々なツールを用いて保護者との連絡を心掛けたが、小さな怪我やトラブルについての伝達が不十分なこともあったので、しっかりと伝える。 ・保護者からの相談や質問などを丁寧に対応するよう心掛けたが、至らない点も多くあり、その都度教師会で振り返り、反省点を次に生かすように努めている。 	3.5 (3.9)
V. 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・『わくわく946〜ちびっこ探検隊〜』を合言葉として、自分たちの身の回りに目を向け、地域にたくさん出かけて行き、自分たちの住んでいる釧路について理解を深めた活動を展開。子どもたちの視点で興味や関心を広げつつ、地域において様々な発見にわくわくする経験を深めることができた。また、地域を愛する心を育む活動となったことは、保護者にも高評価をいただいた。 	3.5 (3.1)

	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に暑さの厳しい夏となり、戸外での活動については健康状態に留意した保育活動とならざるを得ず、猛暑のため遠足を延期するなどの対策となった。暑さの中でも園内では快適に過ごすことができ、冬は少ない積雪の中でも園庭の斜面を使ったダイナミックなソリ滑りを昨年同様に楽しむことができた。 ・依然としてリモートでの交流であるが、老健たいようの利用者さんとのふれあいが継続され、学期ごとに誕生会のアーチの飾りつけをしていただいたり、手作りのクリスマスプレゼントのやり取りをしたりして、心を通わせている。 	
VI. 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤のシフト制による日常に各教師が慣れ、様々な工夫の中で教師会が持たれ、チームとしての連携が深められてきた。 ・特にドキュメンテーション記録を用いることで保育の「見える化」を行い、子どもたちの興味や関心、成長の様子をわかりやすく保護者に伝えることができた。 ・研修形態の選択肢があることで、各自が可能な時間で、希望する研修を受けることができ、教職員のスキルアップにつながった。今年度、受講総数は13名21講座で総受講時間数は260.5時間となったことは評価できる。それぞれの受けた研修内容を教師会で共有する中で、普段の保育を見つめ直し、問題点を改善するように努めた。 ・受けた研修の内容が、聞いただけとなってしまっていないかを反省し、研修後のレポートを作成して、確実に吸収できるようにする。 	3.4 (3.1)

次年度以降に取り組む課題

<p>年主題 『さあ、漕ぎ出そう 奏でよう』 年主題聖句『わたしは道であり、真理であり、命である。』ヨハネによる福音書14章6節</p> <ol style="list-style-type: none"> 《キリスト教保育》年主題『さあ、漕ぎ出そう 奏でよう』の、「奏でよう」は園に集うありとあらゆる人たちが、自分の弱さも出し合い、信頼をもってお互いに助け合えるような場になることで、園が人々をつなぎ、お互いの声を聴いて響きあえるよう願いが込められています。そして、「さあ、漕ぎだそう」の言葉に込められているのは、進む方向を示して下さるイエス様に促されて、安心して漕ぎ進む私たちの姿です。 インマヌエルの主であられるイエス様が与えてくださる平安の中で、子どもも大人も互いに許し合い支え合う、愛に溢れた関係を日々の保育の中で深めるよう努める。 《保育の計画性》園が子どもたちにとって安心できる園であることを求める1年としたい。こどもも大人も一人ひとりがそれぞれに個性があり、その色合いに違いがあることを互いに認め合い、尊重し合える関係性を深めていく。オーケストラが様々な音を組み合わせることで、心に響く素晴らしい音楽が奏でられるように、それぞれの得意なことや不得意なことを組み合わせ、互いの弱さも補い合い、子どもたちにとって安心できる園となるように保育を計画する。そして、子どもたち同士が相互に関わり合いながら興味関心を広げて存分に遊びを展開し、わくわく感が生まれる子ども主体の保育を大切にします。 《危機管理及び教職員間の連携》保育事故などの事例など情報を収集し、自園に置き換えて考察することなどを通じて、危機管理についての意識を高くもつことができるようにする。また、様々な事故を想定して避難訓練を行い、確実に子どもたちの安全を確保できる力を養う。教職員全員で消防関係者による救急救命の講座に参加し、緊急時にも対応できる力を身につけ、教職員間の連携を深める。 《保育者としての資質》保育の専門家としての質の向上を目指すため「子どもの人権擁護のためのチェックリスト」を継続して用いて、自らの保育を振り返り、保育者としての適切なあり方についての意識を高める。自らが意識せずに「子どもを置き去りにした保育」や「保育者の都合ですすめる保育」を行っていないかの自己点検を定期的に行い、「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」についての意識を高める。 《保護者への丁寧な対応》小さな怪我やトラブルについてであっても、保護者への伝達を丁寧に行い、しっかりと伝える。子どもの園での姿について電話やブログなどの連絡ツールを用いて伝え、相互の信頼感を深める。 《自然や地域社会とのかかわり》季節ごとに自然に十分に触れて遊べるように外遊びを積極的に取り入れ、「自由あそび」や「みんなの日」を充実させて、小さい子への思いやりやいたわりの心、また、大きい子へのあこがれや挑戦する気持ちなどを十分に感じることができるよう異なる年齢の関わり合いを深めつつ過ごす。また、老健施設や地域の方々との交流をもち、社会に視野を広げることができるように促す。
--

7. 《研修及び研究》キリスト教保育指針の改定を受け、教育要領の学びを行い、個々の保育力のアップを図る。また、受けた研修が聞いただけにならないように、研修レポートを作成して、研修内容を教師間で共有、日々の保育に生かすようにする。